

イカ類漁海況情報収集・提供事業（要約）

三浦太智・長野晃輔

目 的

スルメイカ、アカイカの分布・回遊、漁況等の調査結果を、漁業関係者に提供し、効率的な操業の一助とし、漁業経営の安定、向上に資する。

材料と方法

1. 学習会の開催

漁業者を対象とした学習会の開催等により、スルメイカ、アカイカに関する前漁期の状況、本県漁期前の情報を発信した。

2. 漁獲動向調査

日本海側は小泊、下前、鯨ヶ沢、深浦の4港、津軽海峡側は大畑港、太平洋側は白糖、八戸の2港をそれぞれの海域の主要港とし、各海域におけるスルメイカの月別漁獲量を調べ、経年比較し、動向の変化を検証した。

結 果

1. 学習会の開催

新型コロナウイルス感染対策により、これまで例年開催していた小型漁船漁業者を対象とした各地区での学習会等の情報提供の機会が無くなったことから、2020年5月に資料配布による情報提供を行った。

2. 漁獲動向調査

(1) 凍結スルメイカ

八戸港における凍結スルメイカの漁獲動向は、1999年漁期から2006年漁期まで横ばいであったが、2007年漁期以降減少に転じ、2015年漁期に10,000トンを下回り、2019年漁期は968トン、2020年漁期は1,190トンと極めて低調であった（図1）。

(2) 近海スルメイカ

2020年の全海域の合計水揚量は1,930トンで、前年比82%、近5年平均比76%であった（図2）。

海域別にみると、日本海（小泊・下前・鯨ヶ沢・深浦港）の水揚量は285トンで、前年比43%、近5年平均54%であった。津軽海峡（大畑港）の水揚量は85トンで、前年比39%、近5年平均比21%であった。太平洋（白糖港）の水揚量は558トンで、前年比103%、近5年平均比119%であった。太平洋（八戸港）の水揚量は1,003トンで、前年比108%、近5年平均比88%であった。

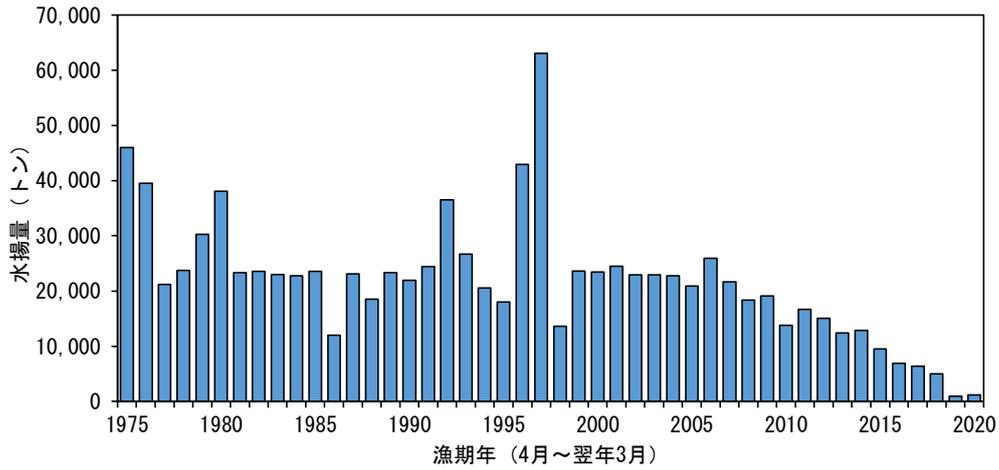


図1. 八戸港における沖合スルメイカ（船凍）の水揚量の推移

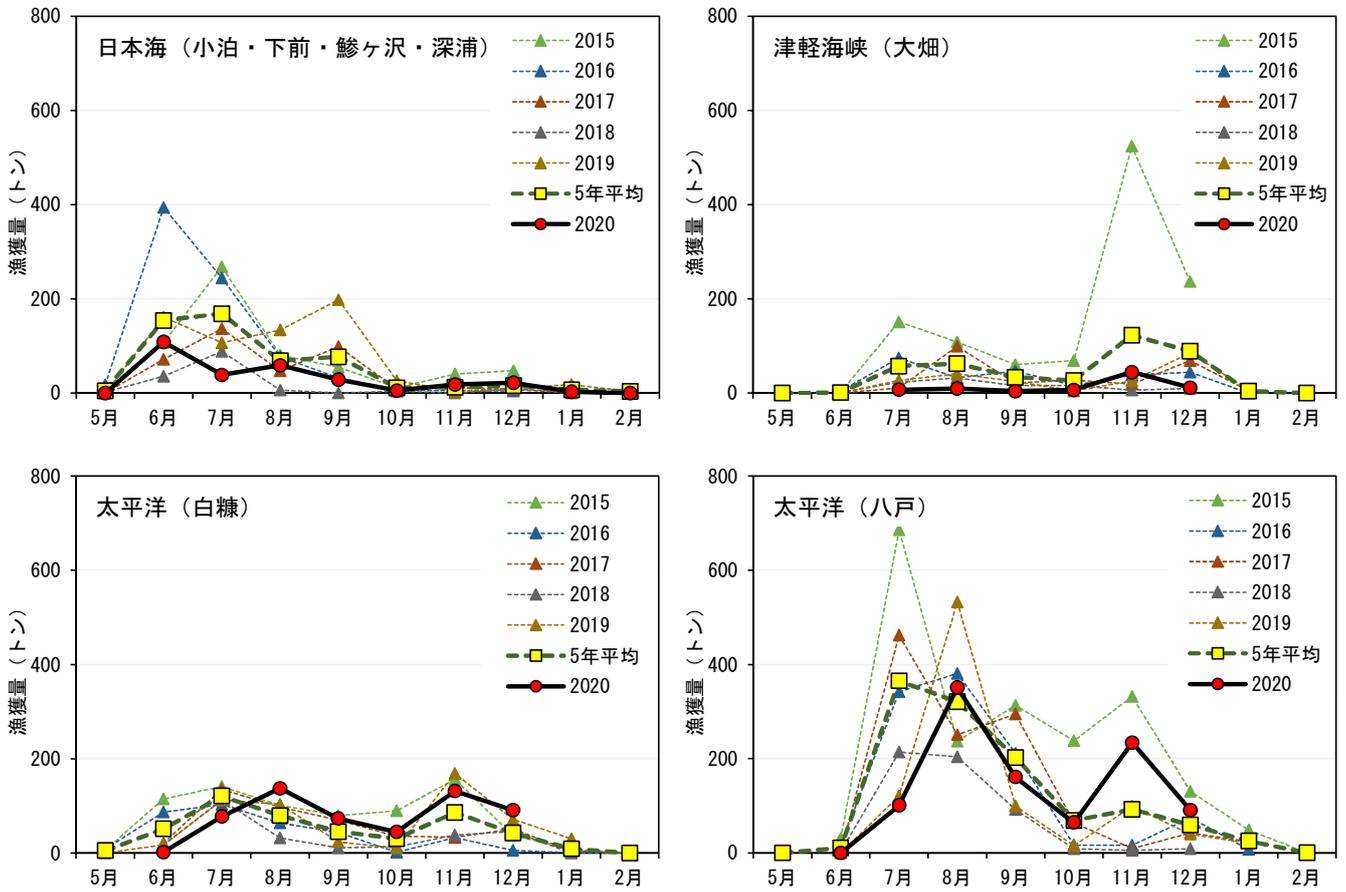


図2. 県内主要港における近海スルメイカ（下氷）の水揚量の推移

発表誌：令和2年度イカ類漁場開発調査資料第45号及び外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する基礎資料集 令和4年9月予定